第30号
（2016年4月5日発行）

発行：中央大学学員会　出版白門会

CONTENTS

（お名前は敬称略）

▽2016年新年会報告
▽学員交歓
▽出版白門会の関連行事予定
▽木内　昇氏　新春講演
「これからの本のために今できること」
▽「中大生よ、本を読め！」プロジェクト
…堀川　隆・木下　潤
▽「白門同窓生の新刊紹介」…雨宮 由希夫
▽「第15回能楽鑑賞会」に参加して
…齋藤　毅
▽「箱根駅伝を振り返って」…加藤　守
▽出版白門会へようこそ
…三枝　真・山田　喜美子
▽告知板
▽編集後記

出版白門会の関連行事予定

①地図を通して知る東京
「馬込文士村を歩く」
5月14日（土）13時30分～
※詳細が決まり次第、会員メールでご案内いたします。

②出版関連セミナー
「デジタル・オンデマンド出版セミナー＆見学」
場所：ホワイトカンバス MON-NAKA
6月（予定）
※詳細が決まり次第、会員メールでご案内いたします。

③第16回定期総会・懇親会
7月28日（木）18時30分～
会場：日本出版クラブ会館2Fさくら
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。

④会報発行　10月1日予定

⑤箱根駅伝予選会応援
※詳細が決まり次第、次回会報でご案内いたします。

⑥ホームカミングデー
※詳細が決まり次第、次回会報でご案内いたします。

⑦＜江戸東京＞歴史文化散策「赤穂浪士凱旋の道を歩く」　11月12日（土）予定
※詳細が決まり次第、次回会報でご案内いたします。

⑧第16回能楽鑑賞会
12月10日（土）12時開場、13時開演
会場：国立能楽堂（渋谷区千駄ヶ谷4-18-1）/JR千駄ヶ谷駅より徒歩5分
狂言　縄綯（なわない）　善竹十郎（大蔵流）
能　　胡蝶（こちょう）　木月孚行（観世流）
※「申し込み方法」「内容詳細」は10月発行予定の第31号会報に同封する、申し込みチラシをご覧ください。

■行事に係わるお問合せは、下記メールでご連絡ください。
E-mail:pub.hakumon@gmail.com
なお、上記行事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。

出版白門

出版界に出版白門の知恵と情熱を！

●基本方針
1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学員会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

2016年新年会報告

1月22日、東京・新宿区の日本出版クラブ会館において50名出席のもと、新年会が開催された。第一部は直木賞作家の木内昇氏（文学部卒）を講師に迎え、「これからの本のために、今できること」と題し、ソフトボールに汗を流した学生時代から、出版社での編集者としての経験、そして現在の作家までの足跡を振り返りながら、出版界への提言も含め、心に響く話を伺った。会場では、直木賞受賞作『漂砂のうたう』、新作の『よこまち余話』など3点のサイン本を販売し、用意した51冊を完売した。

第二部の懇親会は濱田会長の開会挨拶に続き、朝妻副会長の乾杯でスタートした。懇親会には、木内氏にも参加戴き、記念撮影を求める列ができるなど、懇親の和が広がった。初参加者紹介では、山田喜美子さん、三枝真さんから挨拶があり、大きな拍手で迎えられた。続いて、恒例の新春ビンゴ大会、吉例の土屋事業委員長の歌唱指導による校歌の大合唱、最後に森岡理事が、落研出身の片鱗を見せる、見事な「なぞかけ」を織り込んだ中締めで名残を残しつつお開きとなった。

学員交歓

■白門57ネット主催の“新年交流会”に参加

♣1月3日（日）の箱根駅伝復路応援の後、昨年に引き続き白門57ネット主催の東天紅〈有楽町〉での“新年交流会”に参加しました。駅伝はご存知の通りの結果でしたので、“祝勝会”が、同会の浜田会長流に言えば“チクショウ会”に変じましたが、そこは同窓の心やすさで、たちまち「白門1984会」も合流しての、和気藹々の楽しい交流会となりました。出版白門からは5名が参加し、青学カラーの“いでたち”で参加した髙木氏のエスプリの効いた挨拶に、会場が湧きました。。

支部は違えど、白門の仲間たち

■「はくらく会・幸兵衛会」に参加。同窓の落語家たちを声援しました。

♣1月30日（土）、新宿永谷ホールにて、中央大学落語研究会「はくらく会･幸兵衛会」主催、出版白門会協賛の、桂やまと、春風亭朝也、林家つる子による「三人会」が開催されました。会場は、通路にも椅子を設置するほど、中大OB、現役で埋め尽くされ、あたかも3人のための、パワーあふれるサポーター集会の様相でした。
出版白門関係者は事前に特別枠をいただき、同研究会OBの森岡理事他10名が参加、沖縄料理屋での二次会も盛会でした。

来場者を見送る林家つる子さん

オール出版白門会で取り組んだ「中大生よ、本を読め！」プロジェクト

【出版白門会の機動力で実現】

出版業の職域支部として何らかの読書推進活動を、という年来の課題を検討する中で生まれたのが「中大生よ本を読め!!」という書籍のフェアです。母校・中央大学の現役生に向けて、出版界で働く先輩が、感銘を受けた本を推薦する趣向とし、昨年秋（10～11月）、中央大学生協多摩書籍売場のご協力を得て実現しました。詳細は本会URLもご覧ください。

当初、事業委員会での検討から始まったフェア企画でしたが、イベント実施や組織の宣伝、運転資金などの諸案件含みで、現行の各委員会をまたぐ取り組みであることから、昨2015年春に横断的なプロジェクトチームを作りました（PTメンバーは中大生協・木下、阿部（信行）、竹林、丹田、堀川でスタート）。

選書アンケートから始まる煩雑な段取りでしたが、予算化ののち本格的に動き出すと、そこからとんとん拍子の進行となりました。その告知・募集や文章化は丹田さん、選書リストを含むリーフレット作成は、平河工業社の齋藤毅さんと堀川が、幹事会・学員会との連携は竹林さん、書籍の手配はトーハンの佐野さんと浅野さん、プレスリリース関係は阿部信行さん等々と、PTメンバーが各自の役割を絶妙なタイミングで実行するという流れるような連携で、業界各所に卒業生を擁する出版白門の機動力を見た思いでした。

ご協力いただいた皆さまに改めてお礼申し上げます。目下、第二回のフェア実施に向けて構想中。皆さま、引き続きご協力をお願いします。（堀川 隆）

中大生協多摩店では、「中大生よ！本を読め！」企画を2015年10月19日～11月20日まで開催いたしました。156点の推薦図書の陳列をはじめ、その中の72点に推薦者からのコメントを載せたPOPを作成いたしました。色鮮やかなリーフレットの効果も有り、書籍店内において500人を超える人達が、リーフレットを手に取って行かれました。期間中の販売冊数は、合計343冊、販売金額は約40万という数字となりました。内訳につきましては、文庫本を中心とした自己啓発書の売れ行きが好調でした。また、中大卒の方が書かれた本も手に取られる方が多かったです。生協のHP及びTwitterをはじめ、業界紙、大学の広報室のご協力を賜り、多くの方に来店していただきました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと、深く感謝しております。中大生への読書推進活動につきましては、今後も継続的におこなって参りたいと思っております。これからも、ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中央大学生協　書籍店
店長　木下 潤

白門同窓生の新刊紹介　評者 雨宮 由希夫

『近代科学の先駆者たち －「技術立国日本」復興に必要な“見識”とはー』

金子 和夫（工学部・院卒）著　　ごま書房新社　定価1,404円（税込）　2016年1月4日発行

「日本の近代科学の先駆者たち」として、「私のふるさと松代の偉人」佐久間象山（さくまぞうざん）を筆頭に、尾高惇忠、渋沢栄一、江川英龍、小栗忠順、大島高任、田中久重、志田林三郎の8人の人物がとりあげられている。

小栗忠順（おぐりただまさ）は幕末の混乱の中、卓越した先見性で日本の近代化を見据えていた勘定奉行。大隈重信は「明治の近代化はほとんど小栗上野介の構想の模倣に過ぎない」と語っているが、本書の著者も、「のちに明治新政府が富岡製糸場をはじめとする官営模範工場を設立した際のレールは、すでに幕末に小栗上野介が敷いていた。彼の存在なくして日本の近代化は成し得なかった」との評価を下している。

アジアで唯一、短期間で国際社会に列した明治近代国家を創った日本はなぜその後、軍国主義の方向へと進み、昭和20年8月の敗戦という高い代償を払うことになるのか、という問題に著者はいかに立ち向かっているか。

「富をなす根源は何かと言えば、仁義道徳。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」（渋沢栄一『論語と算盤』）。著者は、「この言葉には、戦争という道義に反する行為によって富を得たとしても、束の間の満足にしか過ぎず、本当の意味での国家の、国民の幸福に結びつくものではない、との渋沢の悲痛な叫びが込められているようである」とし、「そもそも、明治政府が富国と強兵を一体化したスローガンにしたことに、日本の近代化が内包した政治的ジレンマがあったのではないか」と分析している。また、「富国か、強兵か……渋沢栄一の問いかけは、日本を含めて現代の世界各国に向けられている」と警鐘を発している。

小栗上野介が幕閣にいたころの部下の一人が、渋沢栄一であった。その渋沢は大隈重信のヘッドハンティングによって、明治政府に出仕。富岡製糸場の初代所長尾高惇忠（おだかじんちゅう）は渋沢の漢学の師であり義兄にあたる……。

人生において“出会い”がいかに大事か。「人生の上で“運命的出会い”から“使命”を見出し燃え尽きることができるかどうかひとえに自らの判断や生き方で決まってしまう。一歩踏み出す本気を」と著者は熱く語る。

著者は昭和10年（1935）長野県松代に生まれ、中央大学工学部卒、同大学院修士課程修了。日本の近代を考える著者の視点は新鮮で生彩に富み、時に現役のテクノロジストとしてのエスプリがあふれ出る。若い人、特に20代、30代の世代の方々に読んでもらいたいとして、自らの人生訓を交えつつ思いのたけを書き綴ったものが本書である。（47年文学部卒）

「第15回能楽鑑賞会」に参加して　齋藤 毅

一昨年の総会で出版白門会に入会し、初めての大きなイベントが「能楽鑑賞会」でした。私は能に関しては全く教養が無く、皆様と少しでも交流出来る機会をもちたいというのが一番の参加理由でした。そして、当日初めて国立能楽堂に入り、迫力ある生の舞台を鑑賞、終わった後に国立能楽堂の中で諸先輩方による解説を伺いながら感想を語り合い懇親会をさせていただく楽しさに感激し、昨年12月12日（土）の鑑賞会も続けて参加させていただきました。

狂言の「鶏聟」には、騙されて鶏の真似をするお婿さんに対する舅の心遣いにほのぼのとした笑いを誘われ、続く能は「殺生石」という演目で、近づく人の命を奪うという石を題材にした怖く迫力がある舞台でした。私は学生時代ジャズ研に所属し音楽には興味があったのですが、狂言・能の台詞（謡）のリズムとテンポの心地よさは初めての経験で、演者の所作の奥ゆかしさと華麗さに圧倒され、至福のひと時を過ごさせて頂きました。

今まで大騒ぎする忘年会しか経験してこなかった私にはとても新鮮で、年末の大きな楽しみがひとつ増えました。白石様はじめ、ご企画いただきました幹事の皆様には大変お世話になりました。今年も12月10日（土）にご予定いただいているとの事、楽しみにしております。

'16 箱根駅伝を振り返って　＝これでいいのか！？ 中央大学＝

加藤 守　スポーツアナリスト（元日本オリンピック・アカデミー理事）

大学関係者の誰もが期待したシード権、私にとっては優勝、しかし失敗に終わった。箱根駅伝については会報（18号・26号）等に執筆している。特に26号では医･科学サポートの面からアプローチをした。

今回、選手のコメントから改めてそのあたりを考察してみる。＊1区・町沢は総合5位以内を目指す気持ちで走ったと、＊結果へのこだわりが足りなかったという藤井、＊徳永・谷本は大会前の故障で思うような走りができなかったと、＊また大舞台でのパフォーマンスができなかったと市田・鈴木・苗村、＊小谷は予想外の順位（遅れ）で焦り、腹痛を起こし体調を崩したと…

言ってみれば彼らは持っている力を十二分に発揮できなかったということだ。箱根駅伝は20km超を走れる選手10人、また時速35kmを超えるスピードで山を下れる選手らを揃えなければならない。しかもコース環境は色々、学生のこの様に多様でレベルの高い競技は、医・科学サポートなしにはまず勝てない。そのような時代に入っていることを大学は認識しなければなるまい。

パフォーマンスをほぼ100%出した町沢を除き、大会前故障をしていた選手にはメディカル･サポートと予防を、大舞台でのパフォーマンスそして予想外の遅れでプレッシャーを感じ箱根山中の寒さから体調を崩すという、これらは常にエリート選手としては考えておかねばならないことである。

東京オリンピック大会後、スポーツ界の将来を考え選手強化に関わる研究を日本体育協会スポーツ科学研究所を中心に行ってきた。＊「膝・脚関節障害に関する研究」；高沢晴夫（横浜市立港湾病院長）他S46　＊「あがり防止の臨床心理学的研究」；松田岩男（筑波大）他S47　＊「競技種目別体力トレーニング処方に関する研究」；黒田善雄（スポーツ科学委員会委員長，東大）他S52　＊「オーバー・トレーニングに関する研究」；川原 貴（東大、現国立スポーツ科学センター長）他H1　＊「チームスポーツのメンタルマネジメントに関する研究」；猪俣公宏（上越教育大）他H4　＊「スポーツ選手に対する最新の栄養・食事ガイドライン策定に関する研究」；小林修平（国立健康・栄養研究所所長）他H9…などなど世界に於ける日本の今後を見据えてのことである。箱根駅伝上位校の大半は何らかのかたちでこれらを導入している。具体的な事例を挙げよう

＊先般行われた大阪マラソン、初めて日本陸上競技連盟設定の記録を破り、断トツで優勝をした福士加代子、彼女も新たなトレーニング方法・食事の改善そして心理的なアドバイスを生かした結果だと、＊世界で最もポピュラーなスポーツ、テニスの錦織圭、コーチをチャンに代えトレーニング方法も彼に、そして期待がかかった全豪オープン、コーチは問題は集中力（コンセントレーション）にあると。

何度も言うが競技の世界は優勝にある。それは記録以上に重い価値がある、かつてオリンピック競技でも表彰は1位のみであった。つまりシード権云々を言っているようでは優勝など所詮おぼつかない。今回箱根を走った選手らのコメントもこのことを物語っている。新聞社におられた丹田氏から、依頼されたテーマに奥深さを感じる。

出 版 白 門 会 へ よ う こ そ

（アイウエオ順）

三枝 真　トーハン　1996年　法学部卒

この度は、出版白門会新年会にて楽しい時間を過ごさせて頂きありがとうございました。「出版白門会」の話は以前より聞いていたのですが、今回縁あって、43歳・卒後20年での初参加となりました。会では業界の話や会の活動等貴重な話を聞くことができました。また、20年ぶりに中大応援歌の「ちから―っ、ちから―っ」と歌い非常に懐かしかったです。高校時代に応援部に在籍していたため応援歌全般に興味がありますが、改めて中大の応援歌に惚れ直しました。(㈱トーハン経理部在職)

山田 喜美子　淑徳大学オープンキャンパス講師　1974年文学部卒

卒業後42年にして、入会いたします。卒業した1974年は、四大卒女子を採用してくれる出版社がほとんどなく、就職浪人となりました。6月になって、卒論でご指導頂いた安永寿延先生(和光大学教授)が、知り合いの出版社に欠員が出るからと紹介して下さって、編集者の端くれとなりました。『週刊アルファ百科』という、週刊誌形式の百科事典を出していた会社で、私は『週刊二十世紀の歴史』編集部に配属されました。7年後にPR会社に転職しましたが、一年でダウン。フリーの編集者として『東海道五十三次の事典』等を企画編集した後、大学院で勉強し直して、カルチャーセンターの古典文学の講師になりました。今年2016年10月に日経ビジネス人文庫から『60分で快読　徒然草』を出して頂くことになっています。

告知板

■ホームページコンテストで出版白門会のホームページが佳作を受賞！

学員会主催の第1回ホームページコンテストにおいて、本会のホームページがHPを持っている134支部のうちから選ばれた5件の佳作に選ばれました。詳細は学員時報3月号をご覧ください。

■白門57ネット支部が、今年も「中大落語会」を開催します

林家つる子さん(平成22年・文卒)の昨年11/1日の二ツ目昇進を記念し、白門57ネット支部主催の「中大の、中大生による、中大生のための落語」である「中大落語会」が本年6月25日・土曜日、15時より、中大駿河台記念館550号教室にて開催されます。

ご案内の詳細は、後日会員メールで差し上げます。

■①出版白門会ホームページのご案内

アドレスはhttp://pub-hakumon.jimdo.com/です。GoogleやYahooといった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。最新の活動情報などを更新していますので、是非アクセス下さい。

②出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail:pub.hakumon@gmail.comです。

■会費納入のお願い（年会費金額￥5,000）

①同封の振込用紙にて、もしくは下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号　00180-8-600659

加入者名　中央大学学員会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口やATMでも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト(パソコン、携帯、スマホなど)もご利用いただけます。

②他行（銀行など）からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行　当座預金

店名（店番）　〇一九（ゼロイチキユウ）

口座番号　0600659

口座名義　チュウオウダイガクガクインカイシュッパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

前号より丹田様から引継ぎをいただきながら編集いたしました。昨年後半のイベント、「中大生よ、本を読め！」では大学生協のバックアップをいただき成功裡に終わることができました。その後のFacebookでの反応を見ると反響の大きさを改めて感じました。また、今号は創刊30号の大きな節目ということで、印刷をお願いしている利根川様のご配慮もあり、初めてのカラー版となりました。これからのオンデマンドの時代、先を行く我々出版白門会の気概を感じられれば嬉しいです。この場を借りて関係各位の皆様に御礼申し上げます。(北村)